

令和7年度第2回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 市長あいさつ

市長よりあいさつ

事務連絡（委員の変更）

<事務局>

新任委員自己紹介（石原委員）

2 議題

適正配置計画における施設分類ごとの再配置方針等について

<事務局>

資料について説明

<A委員>

建設年次で建物が古いことがわかる。建設から今までに改修あるいは修繕があったことは把握されているか。

<事務局>

令和2年に建物の健全度調査を行っており、改修・修繕を踏まえたうえで建物の点数化をしている。

<小松会長>

類似団体の比較は、いろいろと考えさせられる。学校や行政系、子育て系、保健福祉系などは、ニーズがそれだけあれば良いが、そうでなければ、どのように減らしていくか考える必要がある。また、市民文化系など他市町と比べて少ないものは、少ないから足らないとみるのか、他市町の施設を北名古屋市民が利用していることも踏まえて将来計画を考えていくのか、丁寧な検討が必要である。

北名古屋市の公共施設は借地が多い。公共施設の再配置を考えるにあたり大きな課題である。また、空地系では、都市公園がほとんどないが、だからといって緑が全くないとも思わないのは農地があるからかもしれない。公園がなければいけないということでは必ずしもないし、これから公園は、いろ

んな配置をする中で空地が出てくるので、それを利用するのも一案であろう。一方で児童遊園はたくさんあるのは1つの特徴と思われる。ただし、多くは借地なので、どれくらい児童遊園が使われているかも含めて今後精査していく必要がある。

< B 委員 >

学校教育系施設は、人口に対する数や面積で大体わかりやすい。それ以外は整備目的や運用状況などそれぞれ構成比が低いから増やさないといけないという議論になるといけないので、丁寧に精査したうえで把握していく必要がある。都市公園は少ないが殺伐とした風景ではないし、田園都市な感じがあるので丁寧に分析・説明をして今後の整備に役立てていく必要がある。

< C 委員 >

こういった議論をするにあたっては、人口動態と年齢構成は非常に重要になってくる。一方で市として目指すべき理想のかたちがあると思うので、バランスを見ながら、色々決めていくことが大事だと思う。

子育て支援系施設が他市町よりも非常に充実しているので、1つの強みとして重点に置くことも1つの方法である。

< 小松会長 >

かなり交通の便の良い市なので、若い世代に選ばれていると思う。

< D 委員 >

尾張旭市の市民文化系施設 88 施設と多いが何か。

< 事務局 >

多くは公民館になる。本市も約 60 施設の公民館があるが、基本的に自治会で所有し自治会で管理している。尾張旭市は市の所有となっていて運営は自治会が行っていると思われる。

< D 委員 >

建物の健全度は、どのくらいの数値になると危険なのか。

< 事務局 >

どのくらいになったら危険とかではなく、5つの種別で判定された合計数値であり、優先順位をつけるための数値になる。

< B 委員 >

再配置手法の用語定義について、イメージ図があるが、集約化と複合化で

わかりにくい部分がある。例えば現状の施設を利活用するだけなのか改築するのか又は両方か、他県の施設の話聞いててすべてあり得る。その辺がこのイメージ図ではわかりにくいので工夫が必要と思う。

<事務局>

イメージ図を変更するか、文章の方で整備した後に集約化するように記載を変更するか検討する。

<E委員>

基本方針②の多世代間での交流を再配置の基本方針とするのは何か目的があるのか。機能的に複合施設を造っても世代間交流が起こりうるものなのか。また、共生の社会づくりや世代との交流促進も含めてどのようなイメージで方針を決めたのか。

<事務局>

複合的な機能と記載した目的・理由としては大きく2つある。1つは公共施設の総量の問題ですべてを維持するのは難しい中で1つの建物の中いろんな機能があるという行革的なイメージの複合化という部分になる。もう1つは、市民意識調査において高齢者の方が若い世代と交流する場がなく、交流したいという回答が多くあった。そのようなことを踏まえた中で、想定しているのは児童館の上に高齢者施設があって、強制的なイベントを開催するのではなく、すれ違ったり挨拶をすることも1つの交流ではないかと考えている。それをきっかけに何か新たな取り組みに繋がることもある。2つの機能があってそれが将来的に交流を促すのではないかというイメージで記載した。共生の社会については、少し古い言葉というか昔から言われている部分で行政が市民と一緒にではなく、市民同士で社会をつくる、最近では、協働のまちづくりを行っており、そのあたりを意識して記載している。

<E委員>

特に高齢者の経験談などは子どもも聞いて楽しいと思うので、そういう側面からも何か交流できると良い。

<F委員>

子育て支援系施設は、令和8年度に包括管理業務委託を導入する予定になっているが、鹿田北保育園の老朽化による建て替えのことなのか。

<事務局>

鹿田北保育園の建て替えと包括管理業務委託は異なる。鹿田北保育園の建て替えはプロポーザルで民間事業者を募集し、旧鹿田南保育園の場所に建築し運営してもらう予定。建物自体も民間事業者施設になり、市の施設ではないので包括管理業務の対象ではない。他の保育園は市の施設のため包括管理の対象になり施設管理を包括委託する。

< F 委員 >

いまの鹿田北保育園の場所はどうなるのか。

< 事務局 >

今後のプロポーザルの結果を踏まえて具体的に検討する。基本的には市の土地になるため、別の何かを建てるか、土地を売却するかになる。元々、旧鹿田南保育園の跡地に移転するのも道路が狭く、住宅が密集しており公共施設として不向きという議論があった。

< F 委員 >

旧鹿田南保育園の場所だと、近くに子ども園がある。立地として問題はないか。

< 事務局 >

議論はあったが、保育園に預けたい方で特に駅利用者が多いとなると駅に近づくことで利便性が高くなると判断している。

< G 委員 >

各施設の耐用年数はどのくらいか。

< 事務局 >

耐用年数という文言は使わないようにしているが、コンクリートだと大体 50～60 年と言われているが、お金をかけて綺麗にすることで 80 年使える。基本的に更新とは、安全に使えなくなる、例えば壁が落ちてくるなど公共施設として危険な状態になる前に改修する。

< 小松会長 >

用語定義のイメージ図の点線で書かれている部分は、消えていくように見えるが実際は消えない。不動産として残っているので、これをどう対処するかが実は大きな課題である。例えば、統廃合によって発生した廃校をその後どう利活用するかを検討は、後回しになりがちなので、並行して考えていくべきである。そうでないと、住宅の空き家のような問題が発生することが懸

念される。

<事務局>

点線になる部分は、ほとんどが借地になるため、基本的には返却して廃止することになる。ただし、学校は市の土地があるため将来的に考えていく必要がある。

<F 委員>

児童遊園 86 箇所は維持管理も大変困難であると思う。自治会に入会される方がどんどん減ってきているし、子ども会も除草作業など行っていたが、子ども会自体が消滅の危機的状況である。隣の自治会と協力して行事を行ったりする例もあり、利用者数だけでなく、どのような行事で使われているかなど利用状況を可能な範囲で確認することで、明らかに要らない公園が出てくるので借地も減らせるのではないかと思う。

<小松会長>

地図で見ると偏りがある。数値で現れる課題と地理的な課題をバランスよく議論検討していく必要がある。地図で見るからわかることは多い。

ところで、北名古屋市は、アダプト制度は行っているか。

<事務局>

北名古屋市公共施設アダプトプログラムの制度がある。

<小松会長>

運動広場は学校のグラウンドを代替機能として確保したうえで廃止することは一案であろう。学校敷地内への集約もより進むと思われる。

評価指標の維持管理費の中に、改修・改築費用も含まれているのか。

<事務局>

含めていない。個別施設計画については次回説明する予定で建物の改修費用などのシミュレーションにより毎年の費用を記載するため、切り分けて整理する。

<A 委員>

評価指標の 2%程度の水準について、将来的に変更できるような仕組みにしておく方が良い。

<事務局>

計画自体は 5 年ごとに見直しをする。あえて目標値ではなく評価にして

いるのは、うまくいっているのかどうかのチェックぐらいの位置づけで考えている。今後、社会情勢に合わせて修正は必要である。

< E 委員 >

ガス料金だけ大きく変動しているのは何か理由があるのか。

< 事務局 >

確認したが、基本料や契約形態などの影響ぐらいで、使用量が増えたとか何か設備を変えたとかはない。

< E 委員 >

ジャンボプールについて、しばらくは大丈夫かと思うが、温水プールとの統合は、場所も用途も異なるため、機能が違いすぎて集約できるのか。

< 事務局 >

レジャープールと温水プールというところであるが、大きな社会の流れとして夏場の屋外プールは無くなってきている。集約化なのか複合化なのか単純な廃止なのか記載方法については検討する。

< 市長 >

小牧市もやっていない。豊山町も今年はやらない。ジャンボプールに人が集まるかと思っていたが、話を聞くと、気温が高くなりすぎて客も減っているらしい。さきほど見に行った方から結構人が少なかったと言われた。そういうデータも踏まえながら今後どうしていくか考えていかないといけない。

< F 委員 >

親も子どもも美白世代で日焼けしたくないから小学校の水泳授業に参加させたくないという声もある。屋内プールで良いと思う。

< 事務局 >

直近 2 年で使用料金の変更など実施したので単純比較はできないが、コロナが 5 類になった令和 5 年は 4 万人ほど利用されたが、令和 6 年は猛暑と台風の影響もあって 3 万人ほどに減った。ばらつきがある状況。

< A 委員 >

めざすまちの姿は健康快適都市としているが、運動広場など空地系は無くしていく想定でサッカー場もなくなる。市民が本当に健康快適都市なのか疑問に思う可能性がある。ジャンボプールは高気温と時代の流れで説明できそうだが、統廃合というかたちだけではなく、いろいろと説明が必要だと思う。

<事務局>

廃止もするが整備もするという意味合いで整備予定施設を記載したが、伝え方は丁寧にしていく必要がある。

<小松会長>

夏の酷暑は今年だけでなく今後常態化していくと思われる。酷暑の夏を安全に過ごすために公共施設として何かできることはないのか。例えば、北海道は今年大変暑く、しかし北海道では自宅にクーラーが設置されていない家庭が多く、公共施設に涼みに行っていると聞いている。酷暑対策に限らず、公共施設は、通常の役割とは別に災害時には一時避難場所になるなど、今以上に重要度が増すと思われる。セーフティネットの観点からも大変重要となろう。基本方針④コンパクト&ネットワークの部分が該当すると思われるが、自宅の断熱など市民個人による努力は必要だと思うが、尋常でない暑さに対して今後行政として対策を考えていく必要があろう。

<事務局>

本市は、去年からクーリングシェルターを実施している。公共施設の意義のようなものを整理した文章を追加する。

<D委員>

空地系の施設で雨水を溜めるところの上を公園にするのは、とても良いと思う。災害対策と土地の活用を両立している。例えば、建物系もポイントのみで移転するのではなく、防犯面などいろんな角度・視点から考え、単に施設の機能をレベルアップするだけでなく、市全体としての機能を面の視点からも取り入れてもらえるとよい。

<事務局>

都市計画でも虫の目と鳥の目など見る視点を変えることがあるので、広い視点からも検討していく。

3 その他

<事務局>

報酬及び第3回開催日について連絡した。

【閉会】